令和6年度 児童館年間利用数

渦森台児童館

令和5年度							令和6年度						
学年	学童登録人数		延長保育				学童登録人数		延長保育				
			17時～18時		18時～19時				17時～18時		18時～19時		
1年	29	名	10	名	1	名	40	名	8	名	8	名	
2年	33	名	14	名	8	名	28	名	5	名	1	名	
3年	27	名	4	名	1	名	26	名	3	名	6	名	
4年	21	名	2	名	2	名	20	名	2	名	2	名	
5年	6	名	0	名	0	名	16	名	0	名	2	名	
6年	3	名	1	名	1	名	3	名	0	名	0	名	
合計	119	名	31	名	13	名	133	名	18	名	19	名	

自由来館者数													
令和5年度							令和6年度						
幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計	幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計
	1～3	4～6						1～3	4～6				
463	69	86	65	553	755	1,991	552	191	166	98	912	2,768	4,687

学童年間利用数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年度	1,699	1,678	1,696	1,572	1,539	1,602	1,688	1,548	1,501	1,353	1,356	1,521	18,753
6年度	2,131	1,875	1,893	2,055	1,608	1,795	1,958	1,743	1,689	1,674	1,480	1,895	21,796

ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）	事故報告　（受診を要した件数）	要望・意見・苦情　報告
A：　1件　B：　1件　C：　1件	3件	要望：　2件　意見：　0件　苦情：　2件

方針	基本法	重点目標	計画（P）	実践内容（D）	評価（C）	改善　（A）
サービスの質の向上		子育て支援の強化	・なかよしひろば（毎日） ・お弁当タイム（毎日） ・プログラム（週2回） ・ママカフェ（月2回） ・のびのびひろば（月1回） ・子育て相談（随時）	・毎日、子育てチーフアドバイザーを配置し利用される親子と親しくなることで、安心して来館してもらい、関わりやすさに努め子育て相談に繋げる ・のびのびひろばでは、講師を招いてプログラムを開催してもらう ・SNSインスタグラムにてひろば事業の報告（随時） ・SNSストーリーズにてプログラムのお知らせ（週2回） ・SNS東灘区ためマップ、HPの活用（月1回）	・令和5年度の反省を踏まえ、なかよしひろばのママカフェ時は、主任児童委員が託児を担当してくださり、保護者が安心してくつろぐ事ができ喜ばれていた ・4月当初は、1～2組親子の参加であったが、徐々に参加が増え、10組の参加に増えた事で担当職員の励みとなった ・のびのびひろばでは、毎月講師を招くことは出来なかった。 ・SNSの活用で様子が分かりやすく、参加親子も増えた様子であった	・引き続き、子育てチーフアドバイザーを毎日配置したり、主任児童委員にママカフェの託児を依頼し、いつ来館しても安心して利用していただける児童館となるよう心掛ける ・のびのびひろばでは、毎月講師を招く事ができるよう情報収集に努め早めに依頼する
		児童育成の拡充	・主体性をもった行事への参加や取り組み（随時） ・ダンス教室の継続（週3回）と行事での発表（年5回） ・海外文化を学ぼう（月1回） ・不登校児支援（随時） ・中高生の学習支援・遊び支援（週1回）	・計画した行事ばかりではなくアンケート実施で行事を決め、積極的なお手伝いや参加人数の増員を目指す ・職員も一緒にダンスレッスンに入り、サポートしたり声掛けをしたりする ・他国の文化がわかり易いよう、外国の講師をサポートし、児童の興味を引き出せるようにする ・いつでも不登校児の受入れができるような職員配置を行う ・中高生の学習支援ができる職員の配置と軽食提供を行う	・アンケート結果で、採用された行事には、楽しんで参加する姿が見受けられて良かった 夏祭りでは、学年によってできるお手伝いを話し合い、分けたことで児童も満足できた様子であった ・ダンス教室では、新メンバーも増え楽しそうに練習に励んでいたことが良かった。地域行事でも発表の機会をいただき活動できた ・週2回高校生の不登校生を受入れ、関わってきたが秋から情緒不安定になり、入院した為根本的な改善に繋げる事が出来ず、力不足であった ・中学生の不登校生には、保護者と連携し特技を活かせる手芸教室のお手伝いをしてもらい、将来の話を聞き今後についても一緒に考える事ができた ・中高生の学習支援では、毎週通い勉強に取り組む中学生はいたが、遊ぶ時間は確保できなかった	・次年度は、実行委員会式で1つの行事を児童が考え進めていくことにチャレンジしてみたい。うまく行事を回すことができない事があっても、またやってみたいという思いを持つ事ができるような次へと繋がるサポートを職員ができるよう努めたい。うまくいった場合には、少しづつ規模を大きくしたり、人数を増やしたりするなど児童の可能性を引き出していけるよう努めていく ・ダンスチームの発表は、観ても楽しいが、一緒に踊ることができるような楽しみ方を増やしてみたい ・不登校生には、保護者と連携し、好きな事を見つけ活躍できるような支援をしていきたい。その為には、理解する心と時間、覚悟を備えていきたい ・中高生の学習支援・遊び支援では夕方からの2時間では時間が足りなかった為、次年度は、1時間早めた3時間枠に変更する
地域との共生		地域との連携	・小中学校の体験学習への協力 ・魅力的な行事企画で各団体と協力し、子育てコミュニティ事業の充実を図る（年10回）　・積極的な地域行事への参加と協力 ・ボランティアの募集と受入れ	・主任児童委員と連携し、なかよしひろば親子と5年生が交流できる機会を設ける（命の感動体験学習） ・積極的に中学生（トライやる）の受入れを行う ・コミュニティ事業では、幼児から大人までが参加できる行事の企画をする ・児童館便りやSNSを活用し、ボランティアの募集を行う	・命の感動体験学習では、なかよしひろば親子と5年生が交流できたことで、小さくても愛おしく大切な命である事が実感できたと思う。貴重な体験をした事で、自分だけではなく他人も大切に思える人に育ってくれる事に期待したい ・中学校のトライやる受入れは、連続で毎日活動する生徒ではなく、他事業所の合間に活動する生徒ばかりであったため評価が難しいが、今後も協力は継続していきたい ・同じ行事であっても、少しの変化があると職員も地域団体も理解できていないケースがあった。事前会議で共有できたと思い込まない事が必要であった	・ＳＮＳの活用で、より多くの地域乳幼児親子に、命の感動体験学習への参加を呼び掛ける ・地域力を活かした行事に力を入れ、地域団体と連携し、心に残る行事開催を目指したい ・行事の実行委員会参加の方がかなり高齢化になられてきているため、確認事項は紙面をお渡しして安心せず、何度も紙面と口頭確認を行っていく
		年間利用数	・親子館事業・自由来館年間利用者予定数2，000名の受入れをする ・放課後児童健全育成事業（学童保育）19，000名の受入れをする	・親子館事業・自由来館年間利用者予定数　4，687名の受入れをする ・放課後児童健全育成事業（学童保育）　21，796名の受入れをする	・親子館事業・自由来館者数は、予定数の倍以上の利用があった。親子の来館や子育てコミュニティ事業参加者数が増えたためであったが、SNSの活用で効果があった様子。今後も引き続き、個人情報漏洩にならないよう配慮しながらSNSを活用していきたい	・魅力活動を、SNSを活用PRし、来館人数の増員を目指す ・乳幼児親子の子育て相談だけではなく、児童や中高生の相談、保護者支援にも努めPRを行っていく ・また行きたいと思ってもらえるような環境作りと職員対応を心掛ける。